

B組しばらく無言

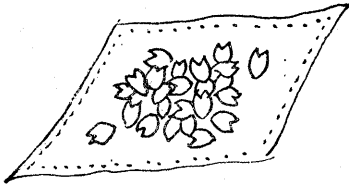
「うちの先生は力が強いんだから、A組なんかぶっとばしちゃうぞ」

おかしさを堪えて、こっそり聞いていました。静かにと注意すれば「先生だってしゃべっているじゃないか」と反論することもできるようになります。

子どもたちの成長に目をみはりながら、そこに何とも言えぬ楽しさがあります。

「今年、どんな子どもがいるでしょう」

(大和郷幼稚園)



上村 菊朗

心と体の準備を忘れずに

春を迎え、自然は新しい息吹きで一杯です。入園の前に、お子さんたちも希望と生気にみちあふれていることと思います。ただ、入園を手放しで喜んでいくわけにはいきません。

毎年のことですが、新しい集団生活に適応できにくいお子さんがあります。早速、病気にかかって休むお子さん、思いがけない怪我をするお子さんも少なくありません。このようなつまづきの機会は、今までの家庭生活と、新しい集団生活のあいだの落差(違い)が大きいほど多いものです。今からでも遅くありませんから、少しでもこの落差を小さくする努力をしておきたいと思えます。この意味で、入園前に必要な心と体の準備をいくつかがあげてみましょう。

年齢相応の生活習慣を身につけて

園では集団として、一定のまとまった行動が要求されます。

その第一は規則的な登園で、このため、今から、早寝、早起きの生活習慣をぜひ確立しておいて下さい。登園前の日課には時間

の余裕が大切です。着がえ、洗面、食事、排泄とせきたてられずにするため一〇分の早起きでも大きな意味を持ってきます。このような規則的な生活で充分睡眠時間をとることは、入園前後の疲れを防ぐのにも大変役に立ちます。

つぎに、心の準備として自立性、自発性が大切です。朝、いわずに洗面、着がえができる、持ちものを揃えるといった生活習慣を確立しておきましょう。始めは時間がかかり、みているいららすることと思います。こんなときでもまわりで我慢して自主性、自立性を育ててください。口うるさく干渉し、手を出してはい自立が遅れます。小さなことでも、自分の力でやりおさせたときは心から励ましてください。

このような自立心は集団生活に適應する一つの鍵になります。

健康のチェックを忘れずに

入園は一つのチャンスです。日頃、なおざりにされがちなお子さんの健康にもう一度、目をむけて下さい。

難聴や弱視、色盲といった感覚器管の障害は集団への適應のさまたげになるだけでなく、思わぬ事故の原因にもなりかねません。気になる症状があれば今のうちに専門医の診察を受けておいてください。扁平足、X脚、O脚、鼠蹊ヘルニアなど外科（整形外

科）的な病気の疑われるときも同様です。

入園後しばらくは、いろいろな感染症が流行します。この機会に、今までにかかった病気、受けた予防接種を整理し、記録しておいて下さい。これをもとに、染らぬ注意、染さぬ注意をするとは園での流行を防ぐためにも大切な条件です。なかでも、麻疹は症状が重く、入園直後にかかると長く休まなくてはなりません。有効な予防接種がありますからまだかかっていないお子さんはなるべく受けておきましょう。

事故には耐性を

入園、入学してまもないころは事故の多発する季節です。なれない道を歩き、なれない遊びが多くなることが主な原因です。危ない危ないだけでは事故は防げませんから、積極的に事故を避ける力、すなわち事故耐性をぜひとも育ててください。通園の路をくり返し往復し、交差点など危険な場所での身ごなしを体でおほえさせておくことです。途中での危険な遊び場所も一通りチェックしておく必要があります。

お子さんの運動能力はどうでしょうか。かけ離れて遅れたお子さんを見掛けます。一定距離を歩ける、走れる、とべる、上手にころべるなど一通り、この機会にチェックしておきましょう。

う。機敏さ、柔軟さなどは家族みんなの協力です。育てあげておきた
ものです。

楽しいイメージを

「そんなことではお友だちに笑われますよ」などと入園はおく
ればせの躰の条件によく使われます。しかし、これが度をこす
と、折角の楽しい入園のイメージはこわされてしまいます。今か
ら、入園後の楽しい生活をなるべく話題としてとりあげ、お子さ
んの心に期待の芽がふくらむよう心掛けておきましょう。

(関東通信病院)

石川 礼子

入園式の朝、お母様方に手を引かれ、あなた方はやって来る。

初めて受け持つあなた方を、私はどのように迎えますよ。

四月から始まる新しい生活に言い知れぬ期待と不安を抱きなが
ら、今、私は実習に励んでいます。

初めて四歳のクラスに実習に行った日に、私の靴を隠してニコ
ニコと笑いながら、「ほくたちの仲間になる？」と尋ねたY君た

ち。小さな子どもたちとの出会いは、いつも私に何かさわやかな
余韻を残してくれました。

一生懸命、机を拭いてくれたながら、「おつくえさん、うれしい
っていつてる？」と尋ねた三歳のSくん。

私の姿を見つけて、まわらぬ舌で「せんせえー」と精一杯大き
な声を出して呼んでくれたJくん。

私の心が、私の言葉が、そのまま一人一人の子どもに返ってい
く……。そのことに驚き、私は非常に嬉しさと共に怖さを感じた
ものでした。小さな子どもたちとのふれあいの中で教えられる真
実の数々……。そして大切にしたい子どもの気持ち。

殊に愛育会の子どもたちとの出会いは、目先の保育技術にとら
われ、その真髄を忘れていた私に、大切なことを教えてくれまし
た。

知恵遅れと呼ばれる子どもたちの多くは、一生懸命話しかける
私の言葉に、言葉で対応はしてくれません。けれども、その心は
まっすぐに私の心を見抜き、私が額に汗して精一杯その子とわか
わった時、初めてそれに応え、私を信頼し、身を寄せてくれるの
です。

いつもはあまり一緒に遊んだことのないN君と、疲れて翌